

芳賀の史跡めぐり

-7-

小坂子八幡神社

小坂子八幡神社は村の氏神様で、祭神は菅田別尊(ほんだわけのみこと)、伊弉册之命(いざなみのみこと)、速玉男命(はやたまおのみこと)、事解男命(ことわけおのみこと)、健御名方命(たけみなかたのみこと)、菅原道真公、火産霊神(ひぶせれいのかみ)、大日(おおひ)の尊の8神です。

明治四十年、村内の神社などを合祀し八幡神社としました。社地は3,742平方メートル、芳賀地区では最も広範囲となっています。

〔合祀した当時の話〕
元老・故中島金五郎氏談
「二頭立の馬で一頭には石宮を背負わせ大きな幣束を立て、もう一頭の馬には長老の氏子総代が乗って、その後には村人達が行列をつくり、八幡

宮まで運んだそうです。」
これは、当時合祀される際の貴重な話です。

社殿は大正二年に改築された切妻造りで、千木は祭神が男神の社を示す外削ぎが特徴的です。社殿は昭和五十年に屋根の葺き替え工事が行われ、トタン葺きでしたが、平成二十二年に「平成大改修」を行い、社殿のほか老朽化していたトイレの改装なども行われました。

記録によればこの時は町民らから1,200万円を超える寄付金が集まりました。手水舎には龍乃口も寄進されました。平成二十二年十二月五日に竣工・落成式を行っています。

以前は境内に大木が生い茂り鬱蒼としていましたが、平成大改修時に伐採などが進み、今は日差

しが入り明るい境内になっています。

平成二十九年十二月二十五日に境内の社務所が全焼する火災がありましたが、一年後には新たな社務所が完成し、平成三十一年の初詣には間に合いました。

例大祭は四月十五日と十月十五日です。祭典の時は「八幡大菩薩」と大書された旗が、南に設置されている門柱に掲げられます。また、元旦の初詣は神社総代のほか、自治会役員らも参拝者へのおもてなし準備にとりかかります。毎年行列ができるほどの多くの参拝者が訪れます。

境内には自治会で植栽したキキョウ、ギボウシ、ユリなど多くの山野草が繁茂しています。町民が

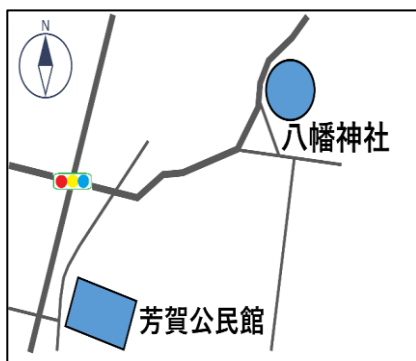
奉納したのぼり旗も参道の両側に並んでいます。町民は八幡神社を大切に護り整備しています。

生涯学習奨励員

小見 耕一



社殿



位置図

6月の主な行事予定

6月9日(日)家庭健全バレーボール大会(芳賀中体育館)
6月15日(土)親子で新じゃが掘り体験(産直味菜の畑)



春夏秋冬

天皇の装束とハゼノキ

代替わりに伴う宮中祭祀で天皇が茶色の束帯姿で回廊を歩かれました。この装束はハゼノキで染められた黄櫨染御袍(こうろぜんのごほう)と呼ばれるもので、その色は天皇のみが身につける事を許されています。ウルシ科のハゼノキはかぶれることもありすが、染料の他、実からロウソクも作られました。先人は自然を賢く利用していたのです。

今、私たちの身の回りは化学染料や、プラスチック製品で満ちています。しかし、そんな生活スタイルが深刻な海洋汚染や気候変動の原因になっていることを考えると、現代社会の危うさを感じます。持続可能な社会の構築のために私たちは再度自然を学ぶ必要があります。ハゼノキは秋になると美しく紅葉します。

嶺町生涯学習奨励員

井上 金治